

## 平成 30 年 12 月定例会 一般質問

荒井宏幸 皆さん，おはようございます。保守市民クラブ，荒井宏幸です。  
一般質問 4 日目のトップバッターを務めます。どうぞよろしく申し上げます。

それでは，通告に従い，一問一答にて質問します。

最初の質問です。1 として，交流人口の拡大について伺います。

本市においては，とまらない人口減少に伴い，消費額も減少し，このままでは経済の活力も停滞してしまいます。減少する消費額を補い，経済の活性化に大きく寄与するのは，交流人口の拡大であると考えています。中原市長におかれても，交流人口の拡大を重要課題と捉えていると認識していますので，その取り組みについて伺っていきたいと思います。

(1)，県は来年度から，観光局を知事直轄の部局に格上げし，交流人口の増加，インバウンドへの対応に強力に取り組む体制にすると，観光に強い花角知事が意欲を示していますが，市長は交流人口の拡大を推進するに当たり，観光行政を強化するために，組織改編など，具体的に新たな強化策は考えておられるのでしょうか。

○議長（永井武弘） 中原市長。

〔中原八一市長 登壇〕

◎市長（中原八一） 荒井宏幸議員の御質問にお答えします。

やはり上手がいるものだと思います。

このたびの県の観光局の組織改正は，観光行政に関する意思決定を迅速にし，交流人口の拡大やインバウンドへの対応をより強力に推進していくため

に実施するものと受けとめています。

本市においては、これまで、インバウンド施策などの強化を図るため、国際・広域観光担当部長を配置したほか、港湾、空港の活性化を含めた一体的な誘客促進に取り組むため、国際・広域観光課内にそらうみ誘客推進室を設置するなど、観光行政強化のための組織づくりに努めてきました。また、県と市の担当者間の連絡調整を密にし、より効果的な観光・誘客施策につなげることを目的に、県・市観光連絡会を開催するほか、庁内においては、交流人口拡大を推進するため、関係部署による連絡会を設置し、連携した取り組みを進めています。

今後さらに施策を効果的に展開するための組織のあり方については、より充実したものとなるよう、組織改編も含め、引き続き検討していきます。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 前向きな答弁をいただきましてありがとうございます。今ほど市長の話にもありましたとおり、これまでも国際・広域観光担当部長に民間の優秀な方を公募で採用し、そしてその部長を筆頭にワールドワイドな活動によって着実に成果が上がっているという中で、さらにまた組織改編も含め、前向きに取り組んでいかれるという大変力強いお言葉をいただきました。

それでは、引き続きまして（２）、来年度は、新潟開港 150 周年や新潟県・庄内エリアデスティネーションキャンペーンなど、本市にとって観光を伸ばす好機に当たります。庄内地方には、ユネスコ食文化創造都市に認定された

鶴岡市もあり、本市との食文化を通じた広域周遊も期待できます。この機会に、国内外にどうやって本市の魅力を伝えていくかをお聞かせください。

○議長（永井武弘） 中原市長。

〔中原八一市長 登壇〕

◎市長（中原八一） 本市の魅力発信についてですが、本市は開港 150 周年、JR デスティネーションキャンペーンから東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会へと、交流人口拡大の好機を迎えています。この機会を捉えて、新潟滞在を楽しんでいただく体験メニューの開発など、おもてなし態勢を強化するとともに、港町文化、芸妓文化、食文化など、本市独自の魅力を最大限発信していきたいと考えています。

昨年度実施した来訪者の動態調査の結果から、年齢、性別による観光素材への認知度、興味度に差があることが把握できたため、SNS やインターネットの活用、広域観光の推進により、今後、ターゲットに応じた戦略的なPR やセールスを実施していきます。

また、県や他市町村、民間事業者などとの連携を強化し、私自身もトップセールスマンとなって、本市の魅力向上と情報発信を進めていきたいと考えています。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 今ほどの市長の答弁にありましたとおり、この新潟市へのインバウンド、特に本市を目がけてピンポイントで訪れるというお客さんがまだ……ひいき目に見ることなく、厳しい目を見たときに、本市の認知度というのはまだまだだと認識しています。

そうした中で、いろいろな広域周遊、広域連携を取り入れながら本市に来てもらいこの機会に知名度を上げていくというのが大事ではないかなと思っています。市長が掲げる政策の中での広域観光圏は、ぜひ推進していただきたいと思っています。

それでは（３）、各種大会、学会、展示会など、いわゆるM I C Eは、一般の観光旅行以上に大型の団体となり、比較的高単価で、滞在日数も多く、広範囲にわたって地域に大きな経済波及効果をもたらすことが期待できます。

本市には、複合型施設の朱鷺メッセがあり、観光コンベンション協会による宿泊や古町芸妓など伝統芸能の補助金制度も充実しているため、これまで他都市に比べ優位性があり、実績も積んできました。現在も朱鷺メッセは高い稼働率を保っています。しかしながら、近年、他都市においても、コンベンション施設の建設や人気のある観光地へのエクスカージョンを含めての提案など、M I C E誘致に乗り出しており、今後は都市間競争が激しくなることも予想されます。新潟空港への上越新幹線の乗り入れや、周辺の開発などの大事業も見据えながら、ユニークベニューなど、朱鷺メッセを補完する意味で新たな切り口も必要と考えます。

本市の交流人口の拡大において、M I C Eの果たす役割は大きいと考えますが、これからどうやって伸ばしていくのか、所見を伺います。

○議長（永井武弘） 中原市長。

〔中原八一市長 登壇〕

◎市長（中原八一） 都市間競争に打ち勝つための方策についてですが、本市はこれまでも、新幹線、航空路などで全国の主要都市や東アジアの海外諸都市と結ばれている高い拠点性や、国内でもトップクラスの支援制度をセールスポイントに、新潟県とハイレベル国際コンベンション等新潟開催推進会議を立ち上げるなど、関係機関とも連携し、国内外で開催される商談会への参加やM I C E関係者の招聘を行い、積極的な誘致活動に取り組んできました。平成25年には、文化・スポーツコミッションを設立し、文化・スポーツイベントの誘致活動にも積極的に取り組み、M I C E開催の件数は、平成24年度の204件から平成29年度は240件に増加し、参加者数は11万人を超え、その経済波及効果は約41億円に上ると推計しています。

一方で、大型コンベンション施設の朱鷺メッセの稼働率は高く推移しており、大型M I C Eの会場確保が難しい状況にあるほか、大規模イベントが集中する時期には宿泊施設が不足するといった課題があると認識しています。さらには、首都圏でのM I C E施設の増床や、Gメッセ群馬が2020年春、高崎市にオープンするなど、M I C E誘致に伴う都市間競争が激しくなっています。

このような状況の中、本市は、これまでに構築された関係者との連携を強固にするとともに、国際見本市を初めとする新たな分野のM I C E誘致や、

食や港町文化，豪農文化など，本市の魅力を生かしたユニークベニユーの開発に取り組むことで，受け入れ環境の充実を推進し，引き続きM I C E開催地として選ばれる都市を目指していきます。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 ただいまの市長の答弁の中で，非常に力強い言葉，特に私が今反応したのが，国際見本市ですが，新幹線の乗り入れや，その周辺についても，将来にわたってこれから取り組んでいくべき大きな課題になってくるのかなと思うのですが，市長，その辺について，もし決意をお聞かせいただけるようであればお願いしたいのですが。

○議長（永井武弘） 中原市長。

〔中原八一市長 登壇〕

◎市長（中原八一） 国際見本市についてですが，これまで構築された関係者との連携をさらに強固にしながら，議員御指摘の国際見本市を初めとした新たな分野のM I C E誘致を初め，しっかりと取り組んでいきたいと考えています。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 ぜひ前向きに、引き続き取り組みをお願いしたいと思います。

(4)、G20新潟農業大臣会合が来年5月11日、12日に朱鷺メッセで開催されます。日本でのG20サミットの開催は今回が初めてです。また、各地で開催される関係閣僚会合の中で、本市の農業大臣会合が一番初めに開催されるため、国内外のメディアにも取り上げられ、注目されることが期待されます。

本市はこれまで、G8、APEC、G7と、実績を重ねているので、今回も成功させ、国際社会からの信頼を得たいところです。そして、今後もこのようなハイレベル国際コンベンションの誘致に力を入れてほしいと思いますが、所見を伺います。

○議長（永井武弘） 中原市長。

〔中原八一市長 登壇〕

◎市長（中原八一） ハイレベル国際コンベンションの誘致についてですが、本市はこれまで、2008年のG8労働大臣会合を初め、大規模な国際会合を開催してきました。このような国際会合を3回連続で開催してきた都市は本市だけであり、この実績により、新潟は大規模国際会合を十分開催できる能力を有する都市であることが国からも認知されたと考えています。

あわせて、これまでの国際会合の開催に当たっては、官民連携による協議会を立ち上げて取り組んだことにより、民間企業の方々にも開催ノウハウが蓄積され、受け入れ能力の向上にもつながりました。これら本市の総合力が、このたびのG20新潟農業大臣会合の誘致成功につながったものと考えています。

来年開催される新潟農業大臣会合においても、会合当日だけではなく、その前後の期間も含め、各国代表者や関係者の方々に、新潟が誇る豊かな食材や先進的な農業の取り組み、港町文化や心のこもったおもてなしなど、新潟の持つさまざまな魅力をできる限り発信していきたいと考えています。

これからもオール新潟の体制で展開していくことで、都市としての魅力や拠点性の向上につながるとともに、先ほどお答えしましたような、さまざまなM I C Eを誘致することで、交流人口の拡大や地域の活性化に資するものと考えていますので、引き続き新潟県と緊密に連携しながら、ハイレベル国際コンベンションの開催に向けた取り組みを推進していきたいと考えています。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 まさに、本市を世界に売り込み、魅力発信することができるまたとない機会だと思いますので、ぜひ大成功することを祈念します。

2つ目の質問です。新潟市助産師会の取り組みへの支援について伺います。

助産師会の取り組みは、生命にかかわる問題、少子化問題に直結するものであり、支援も必要であるというところから質問します。

各助産師は市の依頼で、市の職員と協力しながらこんにちは赤ちゃん訪問事業を実施しています。生後2カ月頃までに2回の家庭訪問を実施し、出生数約6,000人のうち98%の実施率です。訪問した直後にも、産婦から電話やメール等で相談を受けることも多く、母親の産後鬱や虐待防止の観点から

も、産後早期に家庭訪問ができる助産師の存在意義は大きいことがわかります。

(1)、開業助産師への活動支援について伺います。

新潟市助産師会の会員数は94名で、そのうち52名が開業助産師であり、高い割合となっています。ほかの助産師は、病院や大学、専門学校などに勤務しています。

開業助産師の主な収入である訪問指導料金は、20年以上大きな変動がない状況になっています。この期間に、平成23年度からエジンバラ産後うつ病質問票などの業務が追加され、内容の濃い訪問業務になったにもかかわらず、訪問指導料金は据え置かれたままです。

現在、子育て世代の若い助産師も多く、これからさらに希望を持って訪問業務ができる人がふえるように、訪問指導料の増額と、訪問時に必要な物品の貸与が求められていますが、所見を伺います。

○議長（永井武弘） 山口こども未来部長。

〔山口誠二こども未来部長 登壇〕

◎こども未来部長（山口誠二） 開業助産師は、こんにちは赤ちゃん訪問事業において約8割を担っていただいております、みずから助産師会の研修会に参加するなど、資質向上にも努めています。本市の母子保健事業への貢献は大きく、開業助産師が果たす役割の重要性については十分に理解しています。

現在、母子を対象とした訪問に対する報償については、1回当たり政令市平均約4,000円のところ、本市では5,000円とするほか、感染予防対策などの消耗品については毎年支給しています。

訪問に対する報償額や物品の貸与については、他都市の状況を見ながら引き続き検討していきます。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 他都市との比較とおっしゃいましたが、なかなか他都市も厳しいという状況だと聞いています。ぜひとも他都市に先駆ける意味で、本市の大切な仕事をしているというところで、引き続き前向きな検討をお願いします。

（２）の質問、助産師会への補助金増額についてです。

近年、妊婦及び産後１年未満の産婦が亡くなる原因の第１位が自殺という衝撃の事実があります。助産師会では、電話相談を行っていますが、産後鬱やメンタル不調など、さまざまな相談が寄せられています。市民にとって、助産師が相談に乗ってくれる安心感と専門家のアドバイスは、小さな子供を持つ母親にとって気軽に相談できるメリットがあります。こうした活動は、大切な命を守ることに繋がっています。また、希望する学校へ出向いていき、助産師が伝えたい命の話の講座を開催しています。10代の自殺者の問題、少子化の問題にも貢献しています。

しかしながら、今年度は、本市からの補助金が50万円から35万円に減額されてしまい、こうしたさまざまな事業の継続に大きな打撃となっています。このような重要な事業を絶やさぬために、補助金をもとの金額まで戻す必要があると思われませんが、所見を伺います。

○議長（永井武弘） 山口こども未来部長。

〔山口誠二こども未来部長 登壇〕

◎こども未来部長（山口誠二） 新潟市助産師会は、本市の妊産婦や新生児の健康増進に大きく寄与していただいております。補助金については、電話相談事業や、助産師としての資質向上のための教育などの事業を推進、展開するための活動を対象としています。

また、独自事業である高校生を対象とした命の講座では、家庭や子育てのイメージを持ってもらい、将来みずからが子供を産み育てることを考えるきっかけにつながるなど、少子化対策の一つにもなっています。

助産師の専門性を生かした活動や支援については、本市としても重要と考えますので、今後も協働した取り組みを推進するとともに、その支援についても検討していきます。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 今ほど答弁にもありましたとおり、本当に大切な役割を果たしている助産師の皆さんですが、補助金が15万円減ってしまったと。これ、電話一本で命が1つ助かるのです。ほかでもいろいろな電話相談をやっているところもありますが、やはり専門的な知識を持って効果的なアドバイスができるというのは、ほかではできないことだと思っています。部長は、よくその辺の活動のことを御理解いただいていると思うのですが、予算を組む時

期になりましたので、ぜひとも頑張っていたきたいということをお願い申し上げます。

(3)、災害時の母子避難への対応についてです。

災害時に、妊産婦がそこに行けばよいという避難所について、三重県津市にある拠点福祉避難所、または東京都文京区の妊産婦・乳児救護所のような母子避難所の開設や、妊産婦と乳児が避難でき、その場所に助産師や医師を派遣するシステムの構築等について、所見を伺います。

○議長（永井武弘） 山口こども未来部長。

〔山口誠二こども未来部長 登壇〕

◎こども未来部長（山口誠二） 妊産婦や乳児は、災害時に強い不安やストレスにより心身の健康への影響を大きく受けることから、助産師などの専門職が連携して健康管理に配慮した支援を行うことが重要と考えています。避難所における母子への支援において、地域の保健、医療に関する情報をよく知る市助産師会の協力を得ることが、避難している助産婦などの支援や安心感の醸成に重要と考えていますので、助産師会の皆様の御意見をお聞きしながら支援体制の充実を図っていきます。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 避難所運営については、いろいろな課題もあろうかと思いますが、ぜひこうした観点からも前向きに取り組んでいただきたいと思っています。

す。

そして、今定例会の市長のお話から、人口減少問題を非常に重要に捉えているということがよくわかるわけですが、社会減、自然減とありますが、自然減に歯どめをかけていくには特効薬がない今、こうした助産師会のような活動の積み重ねこそが確実に実を結んでいくのではないかなということをお願いします。

3 番目、スポーツによる地域活性化についてです。

(1)、新潟シティマラソンについて伺います。

ことしも本市を代表するスポーツイベント、新潟シティマラソンが盛大に開催され、快晴の青空のもと、1万2,000人のランナーが新潟市内を駆け抜けました。私も11キロメートルのファンランにことしも参加しました。沿道に多くの人が並び、右から左から送られる絶え間ない声援を受けながら走るのには本当に気持ちのいいもので、新潟市民の温かさを全身で感じられる時間でもありました。シドニーオリンピックの金メダリスト、高橋尚子さんをことしもゲストに迎え、全員がハイタッチして元気をもらい、笑顔でラストスパートを切り、ゴールの陸上競技場に次々と入って行きました。多くのボランティアの皆さんに支えられ、安心して競技を楽しむことができ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。ゴールの後は、達成感、爽快感をたっぷりと感じながら、多くのランナーがそうであるように、また来年も参加したいなという気持ちが沸き起こってきたわけです。

そこでアとして、こうして盛り上がっているこの新潟シティマラソンではありますが、ここ2年間は、体育の日に当たる10月の3連休の最終日に開

催されています。その前は3連休の中日でした。これは、経済波及効果を考えたときに機会損失と言わざるを得ません。県外から参加された多くのランナーたちは、前日の夜は調整に入っているため、食事や飲酒は控え目にします。当日走った後に至っては、翌日の朝から仕事があるため、早々に帰路につきます。私の同級生も、県外や海外からマラソンに出場するために毎年帰ってきます。以前は、彼らとの再会を喜び、同級生が多く集まって、マラソンの後は大宴会が開かれ、さらにその後ははしご酒と、大いに盛り上がっていました。あちらこちらで同じようなグループを見かけたものですが、ここ2年は主役たちが帰ってしまうので、小宴会になっています。本市のスポーツイベントの中では最も多くの予算をかけて開催されているわけでもありませんし、せっかく多くの方々が市外から訪れているので、ぜひとも本市の美酒、美食を堪能していただきたいと思わずにはられません。

特別な予算がかかるわけではありません。ただ日にちをずらすだけです。これをやらない手はありません。来年度の新潟シティマラソンは、10月の3連休の初日か2日目に開催してはいかがでしょうか。

○議長（永井武弘） 中野文化スポーツ部長。

〔中野 力文化スポーツ部長 登壇〕

◎文化スポーツ部長（中野力） まず、荒井宏幸議員におかれては、新潟シティマラソンに御参加いただきましてありがとうございました。

新潟シティマラソンは、昨年の制限時間の延長と大規模なコースの見直しにより、スタート地点をこれまでの市陸上競技場からデンカビッグスワンスタジアムへ変更しました。

なお、日程については、このスタジアムがJリーグ、アルビレックス新潟の本拠地であることから、試合のスケジュールを考慮の上、調整し、昨年とことしは、3連休の最終日である体育の日に開催しました。

しかし、ランナー向けインターネットサイトには、3連休中日での開催を望む声が多く寄せられています。また、大会の前後が休日になることで、議員がおっしゃるとおり、参加者が宿泊しやすく、観光や飲食を通じて本市の魅力をより感じていただけると考えています。

現在、来年の大会に向け、関係機関と協議を進めています。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 デンカビッグスワンスタジアムでのスタートは、トラックを走ったり、あるいはスタジアムの中でみんなが一斉にスタート地点に集まれるということで、管理もしやすいというのはあるかもしれないのですが、もしそこにこだわって、どうしても最終日でなければならないということでしたら、よくテレビでも見かけますが、多くの国際大会などがそうであるように、道路に一斉に並べてスタートと。そうになると、警察とか関係機関との調整が当然発生してくるわけですが、いろいろ聞こえてくる声では、あの辺よりも榎谷小路に一斉に並べてスタートすれば、移動も楽です。陸上競技場にゴールした後のシャトルバスが満員でランナーからも混んで大変だという声もいろいろお聞きしています。そういった問題も解消されますし、あの辺の駐

車場も利用者がふえるといったことなどもありますので、そんなことも考えて御検討いただければと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（永井武弘） 中野文化スポーツ部長。

〔中野 力文化スポーツ部長 登壇〕

◎文化スポーツ部長（中野力） コースについては、さまざまな御意見があると思いますので、皆さんの意見を聞きながら、一番よい方法を考えていきたいと思っています。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 ぜひ経済波及効果を考えて、前向きに取り組んでいただきたいと思います。

次にイの質問です。コースについても、ランナーの皆さんからいろいろな御意見をいただきましたが、特に多かったのは、みなとトンネルを往復するコースの評判が余りよくないということでした。昨年、トンネルの中が息苦しいとの多くの声を受け、ことしは走る車線をふやしたことで、ランナー同士の距離が保たれ、息苦しさは解消されたようですが、高低差がきついことや、早くトンネルの外に出たいという声は少なくありません。

みなとトンネルについては、往復するよりも、片道にして東区の工場地帯を通り、柳都大橋を渡るなど、検討してはどうでしょうか。クリアしなければならない問題もあると思いますが、景色の変化に富んだ魅力あるコースを

目指していただきたいと思います。コースに魅力を感じるかどうかは、ランナーが参加を決める大きな要因だからです。実行委員会にも多くの声が寄せられていることと思いますが、ぜひランナーに喜ばれるコースに向けての改善を継続していただきたいと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（永井武弘） 中野文化スポーツ部長。

〔中野 力文化スポーツ部長 登壇〕

◎文化スポーツ部長（中野力） 新潟シティマラソンは、昭和 58 年に新潟マラソン大会として第 1 回を開催し、平成 22 年に萬代橋など市街地を走るコースにしたことを契機に、現在の名称に変更しました。そして、昨年は大幅なリニューアルを行っています。

これまで参加ランナーを初め、多くの皆様からの御意見をもとにさまざまな見直しを行っており、ことしも先ほど議員が触れられましたとおり、新潟みなとトンネルの往復路分離など、若干のコース変更をしました。

今後も県内外を初め、海外から集う多くのランナーにリピーターとなってもらえるような魅力的な大会となるよう、改善に取り組んでいきたいと考えています。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 ぜひ引き続きの努力をお願いします。

それでは（２）、野球場新設についてです。

本市の野球熱は、非常に熱いものがあります。早起き野球大会への参加チーム数は全国1位です。高校野球も、かつては野球後進県とやゆされ、甲子園の抽せん会で新潟のチームとの対戦が決まると喜ばれていたことなども昔の話となり、今は全国の強豪に引けをとらないレベルに達しています。

地元の大学やBCリーグからNPB、日本野球機構のドラフト会議で指名され、プロの1軍のゲームで活躍する選手も輩出されるようになりました。

アの質問です。こうした中で、新潟の野球の数々の熱戦の舞台として愛されてきた鳥屋野運動公園野球場と小針野球場は、築50年以上を経過し、老朽化も著しくなってきました。この2つの市営球場を集約し、鳥屋野潟南部に新市営球場を建設することを柱としたパーク・ボールゲーム・パークプロジェクトが、昨年8月に新潟県野球協議会から本市へ要望された際に、篠田前市長は前向きな姿勢でしたが、市長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（永井武弘） 中原市長。

〔中原八一市長 登壇〕

◎市長（中原八一） パーク・ボールゲーム・パークプロジェクトの提案についてですが、鳥屋野運動公園野球場と小針野球場は、市民に長年親しまれている野球場ですが、両施設とも建設から相当年数が経過し、老朽化が進んでいます。加えて、小針野球場については、周辺環境への配慮から硬式野球の試合が開催できないなど、さまざまな制限があることが問題となっています。

この2つの野球場を廃止して、新しい野球場を1つつくるということにつ

いては、有意な提案、要望であると考えています。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 御賛同いただきましてありがとうございます。

次の質問に行きます。イとして、市長は選挙公約として、県立野球場のハードオフエコスタジアム新潟に屋根をつけると言われていました。これは、野球関係者のみならず多くの市民に夢を与えることだと思えます。しかし一方で、大変な大事業になることも想像できます。実現に向けての決意をお聞かせください。

○議長（永井武弘） 中原市長。

〔中原八一市長 登壇〕

◎市長（中原八一） 私の選挙公約の中における、県立野球場に屋根をかけるということについては、新潟は冬期間悪天候が多いということもあり、冬期間におけるスポーツやイベントの振興のためそのような公約を掲げさせていただいたところです。

実際は、ハードオフエコスタジアム新潟は将来的にドーム化することを前提とした構造にはなっていないため、球場を覆う屋根を取りつける場合には、本体建設に要した費用の2倍程度の費用が必要になると聞いていまして、この点で課題があると認識しています。

一方、新潟県ベースボールサポートクラブによる公民連携でのドーム型野

球場新設の構想もあることから、この提案も含めまして、県と情報共有に努めていきたいと考えています。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 市長の10の基本政策で挙げられていた公約ですが、今ほどの答弁にもありましたとおり、もともとエコスタが屋根つきになる構造になっていないということで、新しく建てる場合の2倍ほどの建設費がかかってくるということでした。でも、エコスタに屋根をつけるというのは一つの手段であって、実際に市長が望んでいるのは、冬期間でも本市において大規模なイベントができたり、あるいは災害時における避難場所として使えるといったことが目的であると思います。

ということで、エコスタにこだわるのではなくて、先ほどの答弁にもありましたとおり、鳥屋野球場と小針野球場がもう硬式では使えない、野球の大会でももう使わないというのがふえてきている状況や、近隣との状況も踏まえて、新しいドーム球場をつくって本市の経済を元気にしていくという方向に、新たに宣言をされてはどうかと思うのですが、市長、いかがですか。

○議長（永井武弘） 中原市長。

〔中原八一市長 登壇〕

◎市長（中原八一） 今ほど議員から御指摘いただいたように、ドーム型施設を有することは、防災機能の強化とともに、大規模なイベントの開催や冬

期間においてのスポーツ振興という観点から有効であると考えています。

新潟県ベースボールサポートクラブから、世界一にこだわるエンターテインメント型ドームの提案があります。公民連携という新たな発想によるものですが、その実現には今後、計画の具体化や機運の醸成が必要になってくると思います。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 次のウの質問に関することにまで触れていただいておりますが、ぜひとも新しい球場の実現に向けて、機運の醸成に努めていただきたいと思います。

それを含めまして、ウの質問になりますが、新潟県ベースボールサポートクラブが提案する、公民連携による世界一のエンターテインメント型ドーム球場の建設は、その膨大な費用を本市財政だけに頼ることなく建設することを目指しています。野球のみならず各スポーツ競技や大規模イベントにも使用できるドームは、厳しい冬を迎える本市にとって大きな可能性があります。土地取得は本市と市民の寄附により、ドーム建設と管理、運営は民間事業者が行うという提案です。財政難の本市にとって有効な方法と思われませんが、所見を伺います。

○議長（永井武弘） 中原市長。

〔中原八一市長 登壇〕

◎市長（中原八一） 先ほどお答えしましたとおり、新潟県ベースボールサポートクラブによる、世界一にこだわるエンターテインメント型ドームの提案は、市民、県民の皆さんにとって大変大きな夢のある提案だと思っています。また、行政の財政状況が厳しい中で、公民連携という新たな発想で提案していただいているわけですので、本市としてもしっかりと研究していきたいと考えています。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 本市もしっかりと研究していくという力強いお言葉をいただきましたので、期待して、ぜひまた頑張ってくださいと思っています。

それでは、最後の質問となります。4、越後石山駅の橋上化の早期実現についてです。

JR信越本線の越後石山駅の橋上化については、長年にわたり地域の方々が待ち望んでいる事業であり、地元から強い要望も出ていますし、かつて、この本会議場にて先輩議員も質問しています。

利用者が日ごろから不便に感じていることは、ホームが上下線に分かれていること、トイレが新潟方面のホーム上にしかないこと、地下道、地下通路が狭く、薄暗いことなどが挙げられます。地下通路は、一旦階段をおりて線路の真下のトンネルを歩き、次に階段を上り、地上へ出た後、さらに新潟方面へ向かうにはそこから階段を上り、改札を通ります。高齢者はもちろん、若い人でも大きな旅行かばんを持っている場合は大変です。

そこで（１）の質問ですが、超高齢化が進行する中、これらの問題を解決するために橋上化、バリアフリー化が急務と考えますが、所見を伺います。

○議長（永井武弘） 柳田土木部長。

〔柳田芳広土木部長 登壇〕

◎土木部長（柳田芳広） 本市では、高齢者や障がい者など誰もが移動しやすい交通環境の実現に向け、地域の拠点である鉄道駅周辺の整備や、鉄道と公共交通の乗りかえ利便性の向上は重要な取り組みと考えています。このようなか、通勤、通学など、利用者が3,000人を超える越後石山駅では、駅の橋上化はもとより、周辺のバリアフリー化が急がれる状況であったことから、平成24年度より、駅の西口側から段階的に事業を進めさせていただいています。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 今ほど御答弁にもありましたとおり、西口の通路は大変よくなりました。また、そこに行く道路も暫定供用が始まったというところで、いよいよこれから東口、そして駅の橋上化と駅舎本体へという期待が高まっているところですので、ぜひともよろしくお願ひしたいという思いです。

（２）、国のバリアフリー法の指針により、2020年度までに、1日当たり利用者3,000人以上の駅はバリアフリー化が求められています。越後石山駅の1日当たりの利用者数は約4,100人になり、大きくその数を上回っている

ます。既にバリアフリー化されている関屋駅、荻川駅の上をいく利用者数です。2020年までに越後石山駅のバリアフリー化は間に合うのでしょうか。

○議長（永井武弘） 柳田土木部長。

〔柳田芳広土木部長 登壇〕

◎土木部長（柳田芳広） 越後石山駅周辺整備については、御紹介いただいたとおり、平成24年度より事業着手しています。駅の西口側では、平成26年度に駅前広場整備を終えるとともに、この8月に西口広場へのアクセス道路を部分供用したところであり、バリアフリー対応の歩行空間が確保され、利用環境の改善が図られたところです。

一方、東口側については、平成27年度に駅の橋上化とともに、駅前広場や駐輪場の配置などを行う基本計画を策定し、これまで継続的に地元勉強会を開催する中、駅前広場などがいまだ計画段階にあり、2020年度までの駅の橋上化を含めたバリアフリー化は困難な状況であると認識しています。

引き続き、地域の合意形成を進めるとともに、JR東日本と連携を図りながら、早期の完成を目指し、段階的に事業を推進していきます。

〔荒井宏幸議員 発言の許可を求む〕

○議長（永井武弘） 荒井宏幸議員。

〔荒井宏幸議員 登壇〕

◆荒井宏幸 なかなか困難という回答でしたが、今の進みぐあいからいくと、それもやむを得ないのかなというところは認識していますが、新潟駅は連続立体交差事業が完成し、そして新潟駅が立派になっても、そこから1駅行っ

たところが何だか昔から変わらぬ懐かしい風景のままでは、まだまだ開発の余地もありますし、人口をふやしていける余地もあります。そういったところで、利用しやすい駅をぜひ一日も早く実現できるように、また御協力をお願い申し上げます。私の質問を終わらせていただきます。（拍手）